

「活動の概要と研究成果」

NO.J2426

活動題目： 18世紀後半から19世紀前半における
アジア海上貿易の変容とアメリカ商人の参入

所属：龍谷大学経済学部・講師

氏名： 大久保 翔平

本研究は、18世紀後半から19世紀前半にかけてアジア海域の商業に新規参入したアメリカ商人の活動を、世界的な商品連鎖と国際決済の観点から分析することを最終目的とする。そのための基礎的な史料調査とデータベース構築に取り組んだ。特に、(1) 東南アジアを中継したアジア域内貿易と(2) 胡椒、砂糖、コーヒーなどの世界市場向け東南アジア熱帯産品の貿易と生産地社会。(3) アヘン、銀、手形を仲立ちとした国際決済という3つの側面から、アメリカ商人が関わったアジア海上貿易の変容と発展のメカニズムを明らかにすることを試みた。

本研究の活動と成果は以下の通りである。まず、1780年代以降にジャワ島のバタヴィアに寄港し、ヨーロッパ・アジア間およびアメリカ・アジア間、アジア域内貿易に従事したアメリカ船の動向について、オランダ国立公文書館 (NA: Nationaal Archief、デン・ハーグ) 所蔵の『オランダ東インド会社文書』やインドネシア国立公文書館 (ANRI: Arsip Nasional Republik Indonesia、南ジャカルタ) 所蔵の『バタヴィア政庁文書』を用い、データベース作成を進めた。

次に、1780年代から1830年代にかけてのアメリカ商人の貿易パターンをさらに明確にするため、アメリカ合衆国マサチューセッツ州セイラムに所在するピーボディ・エセックス博物館 (PEM: Peabody Essex Museum) 内フィリップス図書館で、未刊行の「航海日誌群 (logbooks and journals)」の史料調査を実施した。今回の調査では、特に東南アジアに来航した船舶の航海記録や日誌を中心に、計138点の史料 (うち航海記録・日誌は112点) を写真データとして収集し、データベース化を進めている。また、ボストン市所在の国立公文書館 (NARA: National Archives and Record Administration) にてセイラム市の税関記録を調査し、計15点の税関記録コレクションを写真データとして収集した。

今後は、作成したデータベースと収集した史料を基に、アメリカ船の貿易についての定量的および定性的な分析を進める予定である。特に、アメリカ商人の商業活動がどのように東南アジアの現地社会やグローバル経済に影響を与えたかを明らかにし、国際学会などで成果を発表していく予定である。